

業務部速報

発信者》JREU
仙台地本業務部 / 湯ノ目
〒983-0852
仙台市宮城野区榴ヶ岡1-4-3
TEL 022-297-0155
FAX 022-291-3070
JR 031-3981~3
FAX 031-3980
2018年 6月20日

申8号「JR東労組仙台地本第33回定期大会の発言等に基づく申し入れ」団体交渉②

(3項)「設備・電気部門におけるメンテナンス体制の改善」「土木・建築部門における一部業務の見直し」実施における、成果と課題を明らかにすること。また、その課題が解決されるまで、新たな施策は実施しないこと。

(回答)若手社員への世代交代と組織としての技術力向上を目的として、人材育成の強化、技術力維持向上、障害発生時の早期復旧、パートナー会社との相互連携強化を行ってきており、メンテナンスレベルの向上が図られてきていると考えている。

【主な議論内容】

- ・埋め殺しケーブル(以前の36団交時議論)に関しては、ルール化を検討。(検討内容:見つけた場合は予算措置を行い、見つけた個所に措置をしていく。)
 - ・図面整備不良、電子データ化に関して、派遣社員を1名増にし、修正を進め、CAD化している。(2018年から5ヵ年計画で修正の考え)
 - ・足ロスに関しては、効率的に周れるよう調整や、タブレット端末の活用、各県・各地に配置されているP社での対応など、行っている。
 - ・定例の修繕は定額要求でいいのではないかとの意見に対しては、作業員の確保、実態の把握や状況把握、設備の状況把握もある。今後も負担軽減は図っていく。
- 【7月1日～実施の「保線部門におけるメンテナンス体制の最適化について」施策やこの間の施策、線閉や間合いに関する調整や教育、今後のCBMに関する施策を見据え、職場議論を積み重ね、労使議論をつくり出していきたいと思えます】

(4項)会社の設備投資に関する考えを明らかにすること。老朽取替の予算は減価償却分しかつかず、多くの設備が国鉄時代に導入した設備であり、現状と合っていないため、必要な設備投資ができるように見直すこと。

(回答)設備投資については、安全・安定輸送のレベルアップ、増収、経費削減や生産性の向上等の投資効果を精査したうえで、必要性や緊急性、優先順位等を勘案し決定しているところである。

【主な議論】

- ・(新幹線総合車両センター支部大会の発言を踏まえた申し入れですが、現時点でメンテナンスブラッシュアップが行われています。)→機械・設備等、現場の意見を入れ、声を聞きながら行う。
- ・新幹線総合車両センターや郡山総合車両センターでは、現場第一線の技術開発等で設備等の勉強もしているが資産化や正式な設備要求は難しい面もあるので支社の支援も願います。→予算的にも難しいものもあるが現場の声を聞きながら行っていく。
- ・国鉄時代に導入された設備の老朽取替では、現代にあった設備を取り入れたいが、(予算の関係などで)現場が要望するものと実物の乖離があることが多い現実がある。本社との設備要求のヒヤリングなどにおいて支社からもフォローを頂き、要望に沿った設備になるように要請しました。